



被災地からの発信 震災から10年を迎えるにあたって



震災9年目を5ヵ月後に控えたいま、わたしたちは9年目の“その日”に何ができるのでしょうか。
 そして、次の年には10年という節目の年がめぐってきます。
 2021年の“その日”は、それまでの繰り返しであって良いのでしょうか。
 この間、全国各地で新たな自然災害が発生し、3.11の被災地からは震災後の知見を活かした支援や活動が続けられています。
 足元に目を転じれば、確かにわたしたちの足跡が刻まれています。
 しかし、10年目が過ぎ、20年たったときも、おなじようにわたしたちの足跡は残されているのでしょうか。
 10年という節目の年になすべきことはなにか。
 民俗学、災害科学、文学、教育、メディアの第一人者が集い、ともに考え、そして歩み出すために、検証いたします。

日時 10月20日(日) 14:00~17:00 (開場13:30)

場所 東北学院大学土樋キャンパス
ホーイ記念館ホール(地下1階)

※会場には駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください。
 TEL 022-264-6424 [学長室事務課]

**入場
無料**



所感と取り組み事例報告

【講師】
 あかさかのりお
赤坂 憲雄氏
 学習院大学教授、
 福島県立博物館館長、
 民俗学者



いまむら ふみひこ
今村 文彦氏
 東北大学災害科学
 国際研究所長・教授、
 津波工学専攻



いとう せいこう氏
 作家、クリエイター



こせき よしゆき
古関 良行氏
 河北新報社論説委員



パネルディスカッション

【パネリスト】
 赤坂 憲雄氏 今村 文彦氏
 いとう せいこう氏 古関 良行氏



おおにし はるき
大西 晴樹氏
 東北学院大学長



ひじかた まさし
土方 正志氏
 有限会社荒蝦夷代表
 ※コーディネーター



- JR「仙台駅」から徒歩20分
- 地下鉄南北線「五橋駅」または「愛宕橋駅」から徒歩5分
- バス停「五橋駅」から徒歩5分